

中学受験の意思決定分析

—理想論だけの教育論争に対する異議—

慶應義塾大学 商学部 4年

第10期 権丈善一研究会

加藤藩 谷中絵理子

2009.07.03.Fri

まずはじめに、

印刷の仕方を 間違えてすみませんorz

学校のプリンターって、なんであんなにわかりにくいの...

**皆さん、
長い長い卒論発表に
お付き合いいただきまして、**

本っっ当ーに
お疲れ様です！

&

ありがとう
ございます！

**発表を始める前に、
ここでひとつ
名言を紹介します。**

**プレゼンは、一種のショーだ。
面白くなければ意味がない。**

だからな、アニメーションとかいっぱいつけて、賑やかにしていいからな。

権丈善一(2007)「社会との対話」授業中の発言

という訳で、

**面白い卒論発表
目指して
頑張ります☆**

ごまかしもできるし…(ボソ)

中学受験の意思決定分析

—理想論だけの教育論争に対する異議—



慶應義塾大学 商学部 4年

第10期 権丈善一研究会

加藤藩 谷中絵理子

2009.07.03.Fri

章立て（予定）

- 序章 はじめに（研究意義・問題意識）
- 第1章 現状把握
 - 1-1 歴史的経緯と制度について
 - 1-2 教育というものの性質
- 第2章 私立中学受験の意思決定要因分析
 - 2-1 問題意識・問いの確認
 - 2-2 仮説：モデル構築
 - 2-3 検証
- 第3章 考察、政策提言：現実に即した教育とは
 - 3-1 考察
 - 3-2 今後の教育政策に関する展望
- 終章 終わりに
- 参考文献

今日は
ココ

章立て（予定）

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

1-2 教育というものの性質

第2章 私立中学受験の意思決定要因分析

2-1 問題意識・問いの確認

2-2 仮説：モデル構築

2-3 検証

第3章 考察、政策提言：現実に即した教育とは

3-1 考察

3-2 今後の教育政策に関する展望

終章 終わりに

参考文献

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

現在、首都圏の国・私立中学受験率は上昇中。

- 15%以上の小学6年生が受験をする
（地域によっては20%以上）



公立校での学習に不安を持つ親が増えた

って言われてるけど果たして…？

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

2008年1月、文部科学省中央教育審議会は
学習指導要領の改訂を発表。

約40年ぶりに

- 授業時間数増！
- 学習内容拡充！

「ゆとり教育からの転換」by. マスコミ
⇒ゆとり教育は失敗だったのか…？

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

いや、
だがしかし！！

この卒論は、そんな話ではありません。

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

「ゆとり教育が失敗か成功か」よりも、
教育政策の混乱っぷりの方が気になりました。

- ゆとり教育を推進してみたり
- 10年経ったらやめてみたり

目指すべきところは変わってないのに…

※参照：「生きる力」by. 中教審（1996）

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

何故混乱するのか？

教育は誰もが議論に参加できるから。

- 曖昧な理想論でも、
- 自分の体験だけをもとに語っていても、

「教育はこうあるべきだ！」

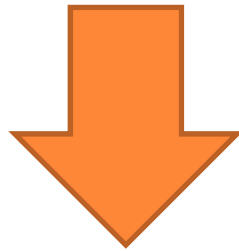
と叫ぶことができるから。

しかも、教育の成果は見えにくい

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

だから

曖昧なままで議論を続ける



教育政策が混乱する

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

という訳で、

本論の目標＞

理想論に振り回されずに、

できる限り冷静に、実証的に研究をする。

その上で、教育政策は今後どうするべきかを
考察する。

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

では、どーやるのか？

中学受験の決定要因分析！

※中学受験＝国立・私立中学校の受験

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

- 中学校＝義務教育課程
- 義務教育課程＝何もしなくても、近所の学校（公立）に進学できる
- 公立校＝近い＋ほぼ無料
- なのに、わざわざ国・私立校を受験する人もいる
- 国・私立校＝遠い＋お金がかかる
- // ＝公立校にはない、独自の教育を受けられる
- 受験するコスト＜受験後の便益

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

しかも

現在、首都圏の国・私立中学受験率は
上昇中。

- 15%以上の小学6年生が受験をする
（地域によっては20%以上）

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

ってことは、

国・私立校を受験する理由（＝決定要因）に、
公立校に足りないものがある！ …と思う。

- 公立校＝教育政策の影響を最も大きく受ける
- 公立校に足りないもの＝教育政策に足りないもの

中学受験の決定要因がわかれば、教育政策に何
が必要なのがわかる！ …と思う。

※幼稚園・小学校受験はサンプルが少なすぎるため、外しました。

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

まとめ

○ 問題意識

- なぜ中学受験をするのか？
- そのウラには教育政策の混乱と、公教育に足りない何かがあるのではないか？

○ 研究意義

- 教育分野では、規範的な立場で議論されることが多い
- 中学受験の要因分析を行った研究はない
- 公教育不信をぬぐいたい

章立て（予定）

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

1-2 教育というものの性質

第2章 私立中学受験の意思決定要因分析

2-1 問題意識・問いの確認

2-2 仮説：モデル構築

2-3 検証

第3章 考察、政策提言：現実に即した教育とは

3-1 考察

3-2 今後の教育政策に関する展望

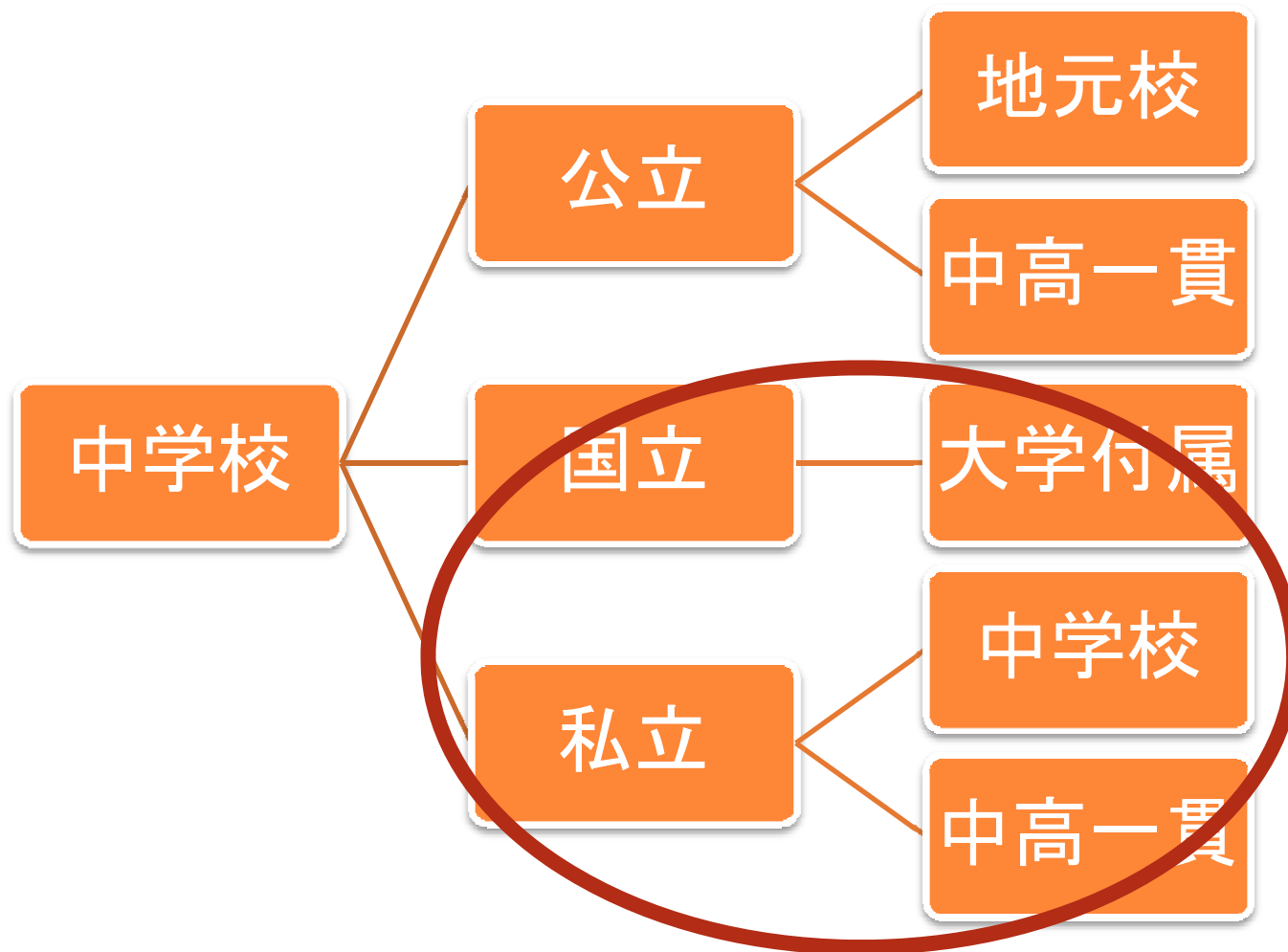
終章 終わりに

参考文献

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

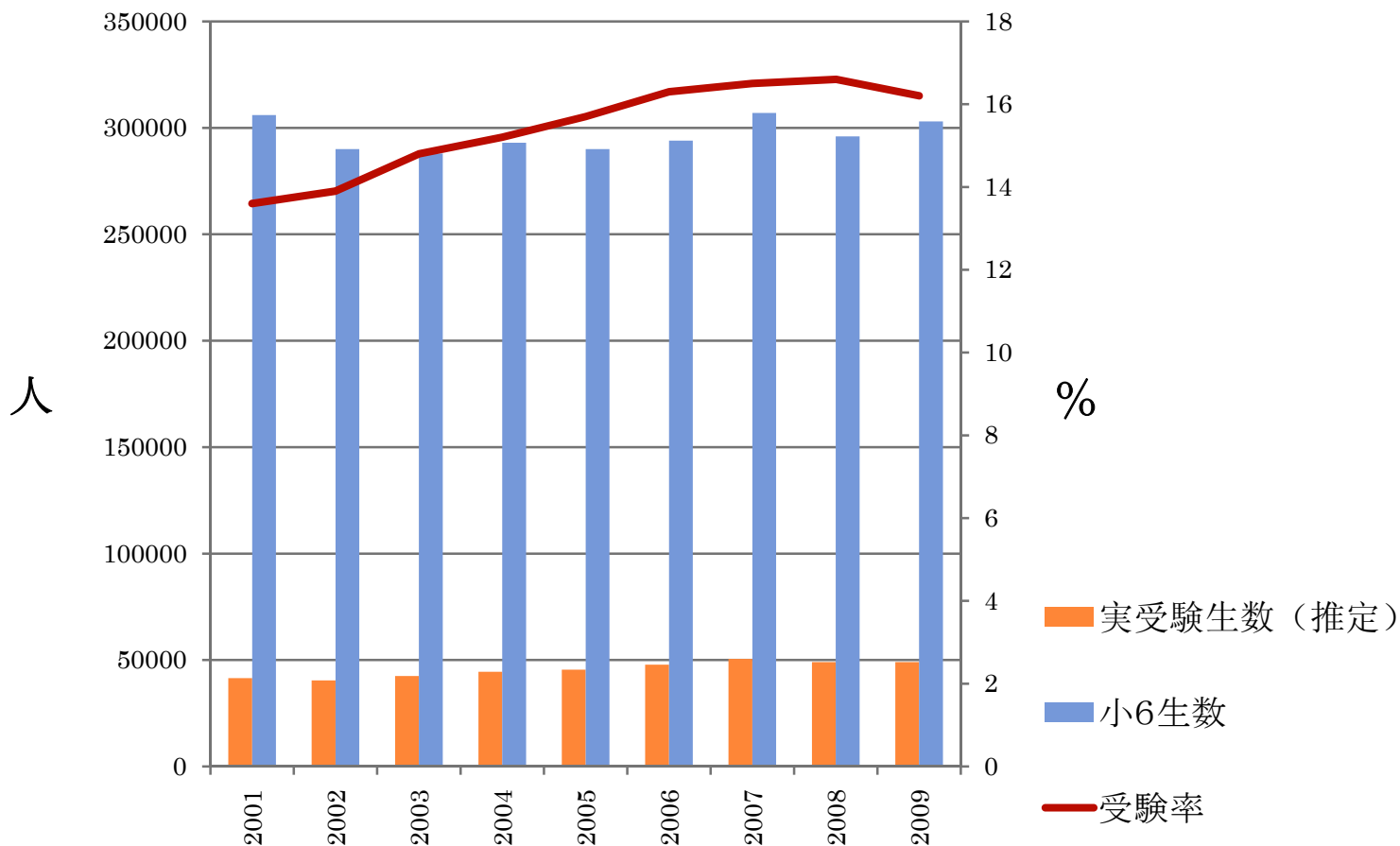
中学校の分類



第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

首都圏小6生数と国・私立実受験生数、受験率



(出所) 市進学院(2009)「2010年入試用首都圏国立・私立・公立一貫中学受験ガイド」

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

市進学院（2009）※谷中のバイト先 によると、

- ～1990年代頃
 - 大学付属校、大学進学に有利な学校の人気（↑就職難を反映）
- 2002年～
 - 保護者たちが子供の学力低下に不安
 - 国・私立校に救いを求めた

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

ちなみに。

- 受験率上昇→人口の多い地域のみ現象
- それ以外の地域では、そもそも選択できる学校がほとんどないので、中学受験はあまり一般的ではない。

(レジュメ図4参照)

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

西暦	元号	教育政策	当時のキャッチフレーズなど
1947	昭和22	教育基本法公布	児童中心主義、生活経験主義
1951	昭和26	指導要領改訂	
1958	昭和33	指導要領改訂	学力観論争、系統主義
1968	昭和43	指導要領改訂	教育内容の現代化
1977	昭和52	指導要領改訂	ゆとりのある充実した学校生活
1984	昭和59	臨教審設置(～'87)	学校教育の自由化
1989	平成元	指導要領改訂	新学力観
1995	平成7		公教育のスリム化
1996	平成8		生きる力(中教審)
1998	平成10	指導要領改訂('02実施)	
1999	平成11	公立中高一貫校設置	学力低下論争
2002	平成14		確かな学力
2006	平成18	教育基本法改正	
2008	平成20	指導要領改訂('12全面実施)	

(出所) 樋口 (2007) などをもとに筆者作成

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

注目すべき点

- 約10年周期で指導要領の改訂が行われている
- そのたびに、教育のキャッチフレーズが変化している
(→教育論争の流れが変わっている)

⇒教育政策の転換点＝指導要領の改訂

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

では、
ちょっと詳しく見ていきましょう。

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

○ 戦直後：経験主義

- 子ども自身の感覚・直感を重視し、経験を通して子どもの発達を図ろうとすること。
- 社会科や家庭科など、実生活の体験を重視

○ 1958年改訂：系統主義

- 知識、技能の教育を重視

○ 1968年改訂：教育の現代化

- 学習内容の拡充
- 「学力観」論争

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

- 1977年改訂：ゆとり教育の始まり
 - 受験競争の激化、校内暴力など問題発生
⇒「ゆとりのある充実した学校生活の実現」
 - 授業時間数、学習内容削減
⇒塾通いの日常化、かえって競争激化
- 同じ頃（80年代）：教育の自由化（by. 財界）
 - 教育に市場原理主義を導入（エリート教育の推進）
 - 学校の多様化、弾力化
 - Ex>能力別授業、学校選択制

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

- 1989年改訂：新学力観
 - 知識・理解よりも関心・意欲・態度を重視
- 同じ頃（90年代）：公教育のスリム化（by. 財界）
 - 学校の役割を「基礎基本」に限定し、それ以上はアウトソーシングする。
 - ナショナル・ミニマム
- 1996年：生きる力（中教審答申）
 - 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

- 1998年改訂：ゆとり教育のピーク
 - 授業時間数、学習内容の大幅削減
 - 「総合的な学習の時間」導入
- その後（00年代）：確かな学力（by. 文科省）
 - ナショナル・ミニマムからの脱却
 - 少人数指導、習熟度別指導など
- 2008年改訂：ゆとり教育からの転換
 - 約40年ぶりに授業時間数増加、学習内容も一部復活

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

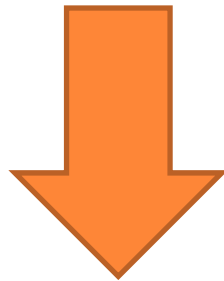
要するに、日本の戦後教育政策は

右往左往。

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

家庭の公教育に対する不信感UP

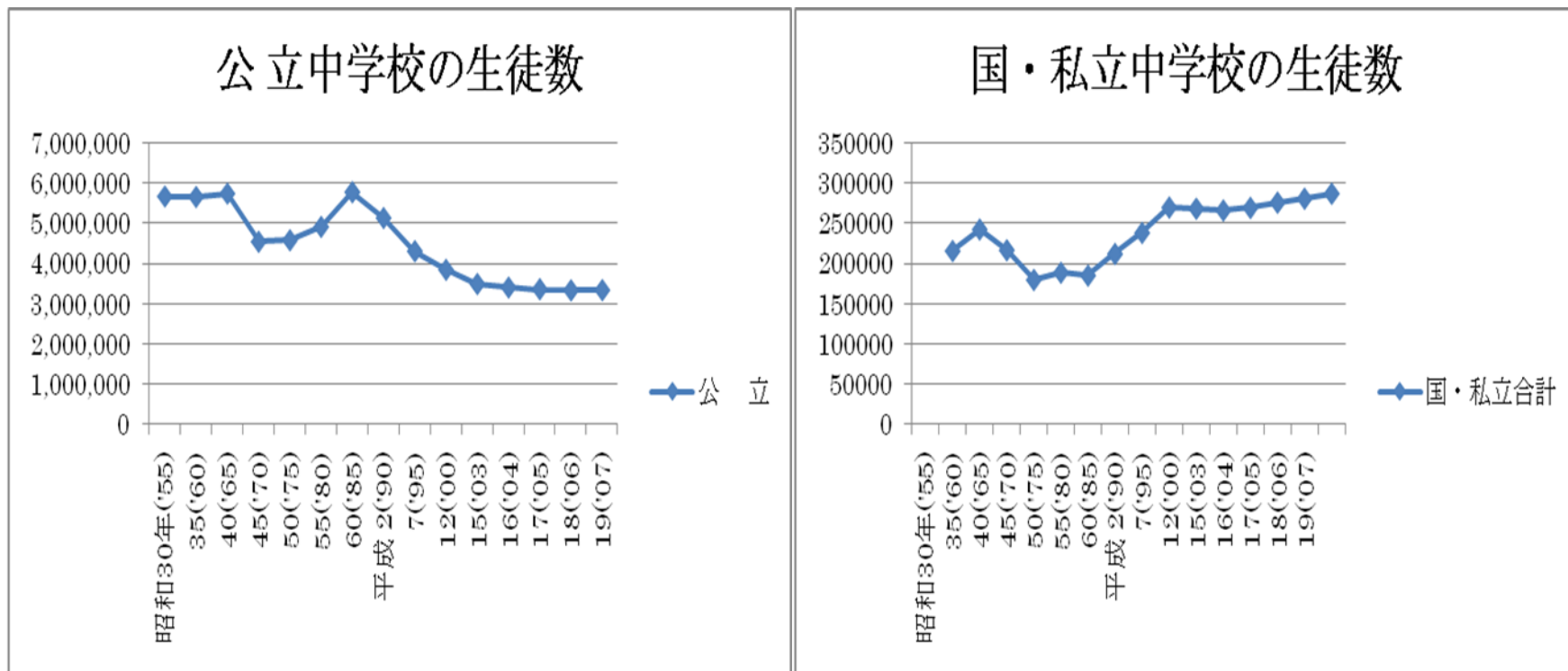


塾通い、受験

(ある程度家庭の経済力がないとできない)

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について



(出所) 文部科学省平成20年度文部科学要覧より筆者作成

政府の思惑と家庭の行動との溝は広がるばかり

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

それじゃ早速分析に…

と、その前に。

章立て（予定）

序章 はじめに（研究意義・問題意識）

第1章 現状把握

1-1 歴史的経緯と制度について

1-2 教育というものの性質

第2章 私立中学受験の意思決定要因分析

2-1 問題意識・問いの確認

2-2 仮説：モデル構築

2-3 検証

第3章 考察、政策提言：現実に即した教育とは

3-1 考察

3-2 今後の教育政策に関する展望

終章 終わりに

参考文献

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

教育＝公的に供給される私的財

「公共財」とは微妙に異なるので注意！

では、公共経済学6章の復習です☆

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

では、ここで問題です。

問題1: 純粹公共財の例を1つ挙げよ

答え: 国防

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

もう一コ問題です。

問題2:それが公共財たる所以を2つ答えよ。

答え:非競合性、非排除性

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

解説☆

利用のための
限界費用
(競合性)

渋滞した
ハイウェイ

純粹私的財
(医療・教育)

純粹公共財
(国防)

消防

排除の容易さ
(排除性)

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

解説☆

○ 非競合性

- 誰かがそのサービスを消費しても、他の人の消費を妨げることがないこと（→限界費用=0）

○ 非排除性

- 特定の個人がサービスを享受しないように排除することができないこと（→フリーライダー）

○ 教育＝公的に供給される私的財

- つまり、競合性も排除性もあるのに政府が供給しているということ。

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

では、さらに問題です。

問題3: 教育が公的に供給される根拠を答えよ

答え: 外部性、価値財、再分配(機会平等)

- スティグリッツ(2006)では、「分配上の考慮」(両親の資産によって、機会不平等になることを防ぐ)が主な根拠になっています。

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

教育はどうやって供給されるのか？

(割り当て制度)

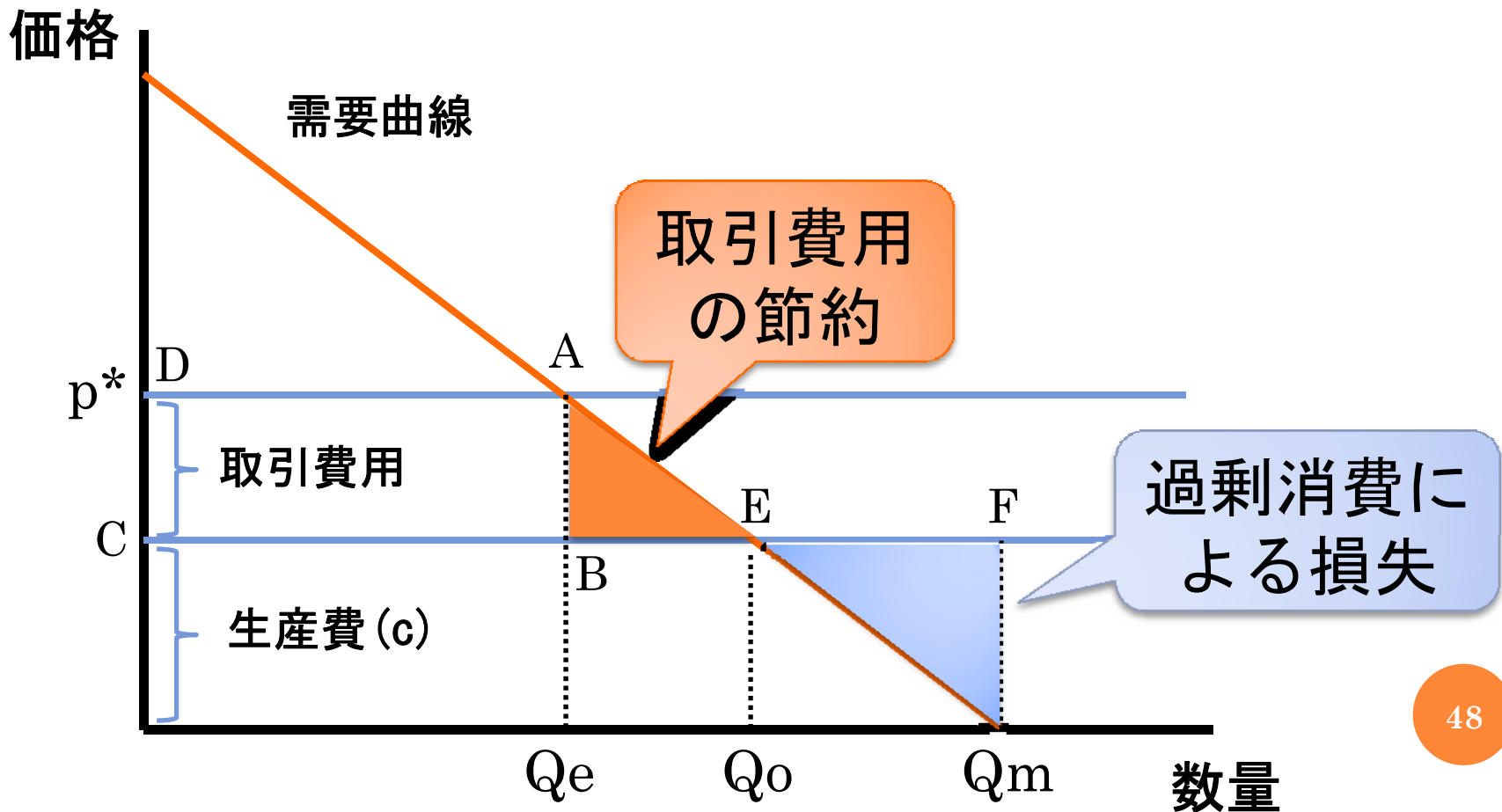
一律的供給

- すべての人に同量を供給すること。
- メリット：取引費用が節約できる

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

「取引費用が節約できる」とは？



第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

教育はどうやって供給されるのか？

(割り当て制度)

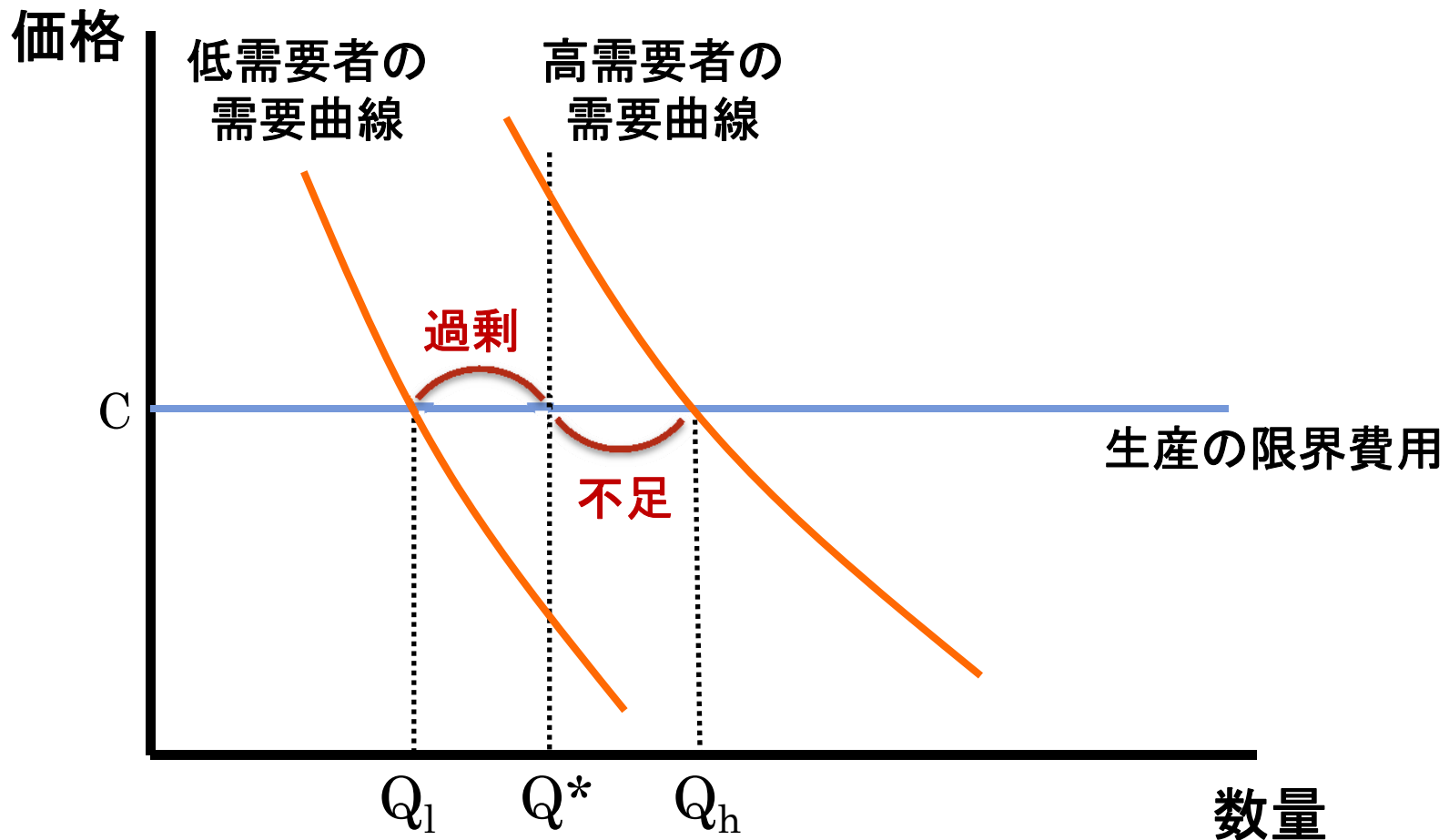
一律的供給

- すべての人に同量を供給すること。
- メリット：取引費用が節約できる
- デメリット：過少消費になる人と過剰消費になる人がいる

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

一律的供給による資源配分上の歪み



第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

教育の財源

- 地方自治体の歳出のひとつ。
(パス山(2009)参照)
- 「教育税」という目的税はない。

※私立校に通う家庭は税金と授業料を二重負担している

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

人はなぜ教育を需要するのか？

○ 人的資本論

- 教育＝労働生産性を高め、将来賃金を高めるための手段

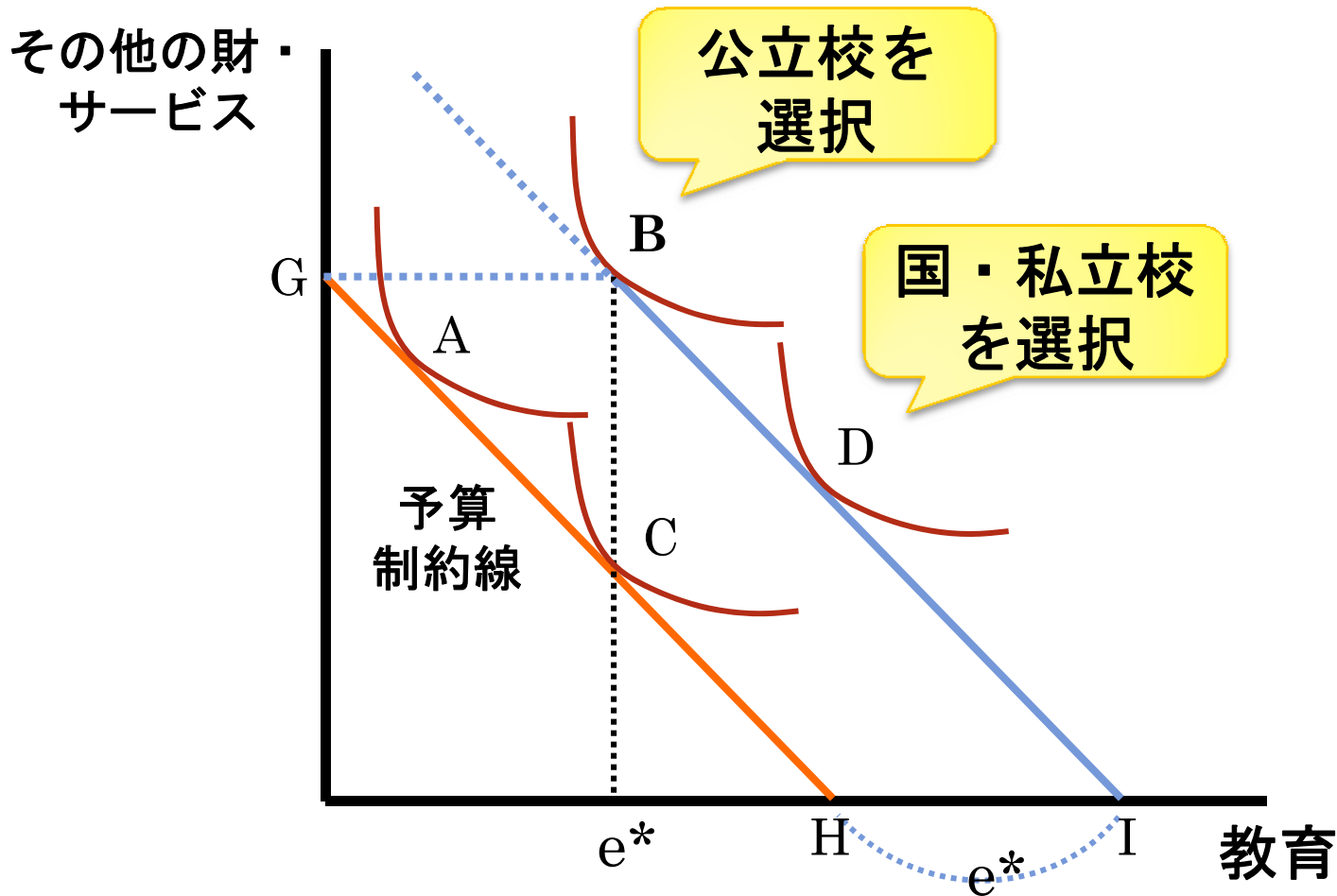
○ シグナリング理論

- 教育(学歴)＝個人の能力を証明するもの

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

中神(2007)によれば、



第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

小塩(2003)によれば、

- 教育⇒投資財で消費財。
- 意思決定主体：子供(本人)or保護者

		目的	
		投資	消費
意思決定主体	子供(本人)	①	②
	保護者	③	④

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

		目的	
		投資	消費
意思決定主体	子供（本人）	①	②
	保護者	③	④

<例>

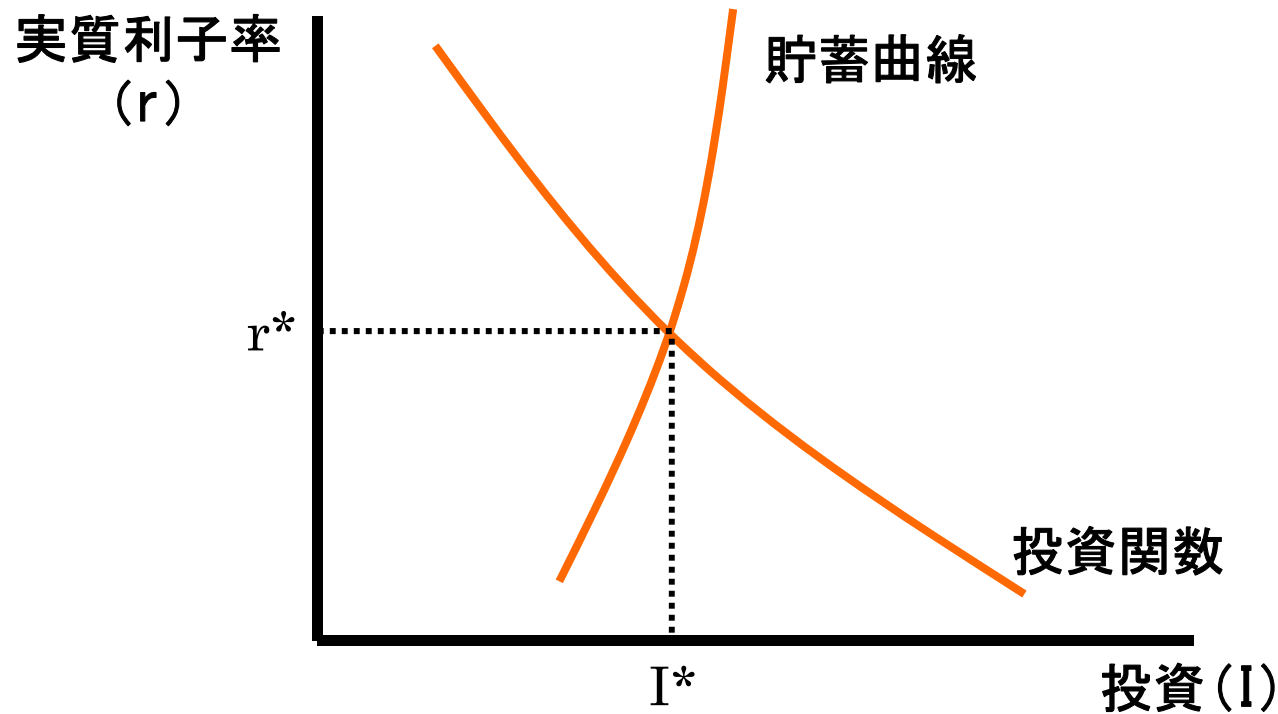
- ① ビジネス・スクール（社会人向け教育）
- ② お稽古、習い事（趣味、市民大学講座）
- ③ 早期受験（子供に良い人生を送らせる）
- ④ 早期受験（誇示的消費）

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

○ 投資財

- 将来に関する期待 (= 不確実性)
- 利子率

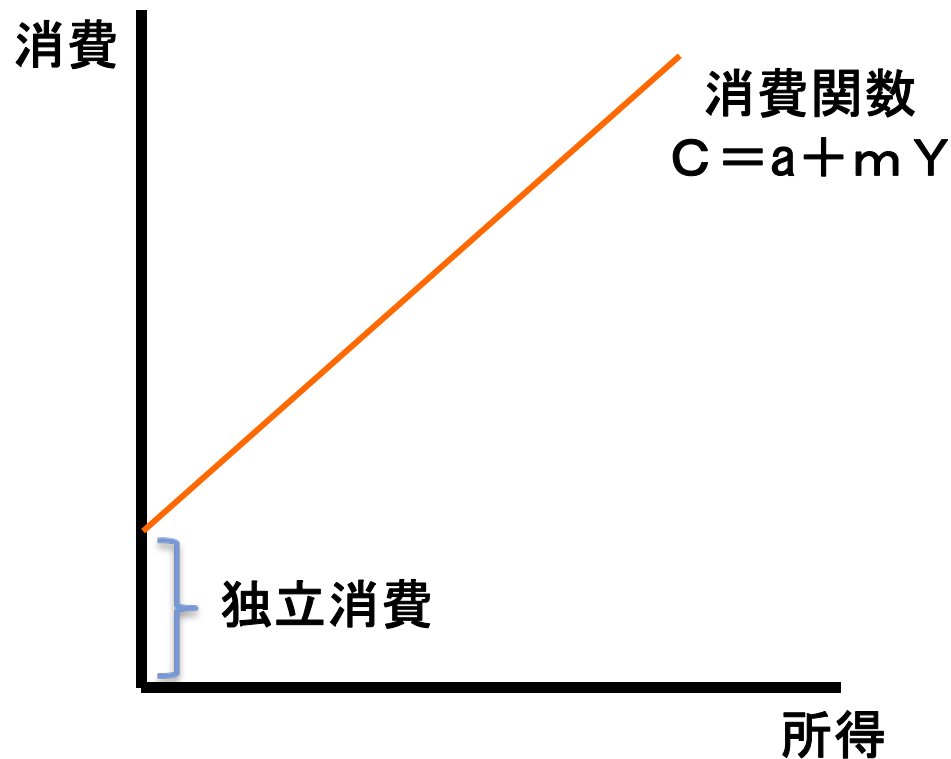


第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

○消費財

- 所得（可処分所得）
- $C = a$ (独立消費水準) + m (限界消費性向) Y (可処分所得)



第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

ってことは、

教育＝投資財 & 消費財



教育の需要量、つまり公立と国・私立
どちらに行くかは、“将来に対する
期待（＝不確実性）”と“所得”に
よって決まる？

第1章 現状把握

1-2 教育というものの性質

ちなみに。

- 小塩 (2003)

「教育需要は子供の能力に関する不確実性—それは、「夢」または「勘違い」と言い換えて構わない—があるからこそ成り立っている。」

- 中神 (2007)

「教育が正常財であるとすれば、所得が高い世帯の子供ほど質の高い教育を受ける。」

次回予告

という名の、今後の展望

○ 仮説

「教育の需要量、即ち公立と国・私立どちらに行くか（中学受験の決定要因）は、“将来に対する期待（＝不確実性）”と“所得”によって決まる」

- 不確実性をどう表すか
- 一応同時進行で中学受験の決定要因を考えてたけど、関連が不透明…
- 検証方法は？
 - 選択行動の分析手法「プロビット分析」
 - 期待効用関数

参考文献

【書籍】

- 荒井一博（1995）『教育の経済学：大学進学行動の分析』有斐閣
- —————（2002）『教育の経済学・入門：公共心の教育はなぜ必要か』勁草書房
- 市川伸一・和田秀樹（1999）『学力危機—受験と教育をめぐる徹底討論』河出書房新社
- 井上一馬（2001）『中学受験、する・しない？』筑摩書房
- 小川哲哉ほか（2008）『日本教育史概論』青簡舎
- 小塩隆士（2003）『教育を経済学で考える』日本評論社
- 権丈善一（2006）『医療年金問題の考え方：再分配政策の政治経済学Ⅲ』慶応義塾大学出版会
- J・E・スティグリッツ（2006）『スティグリッツ公共経済学（上）第2版』東洋経済新報社
- 樋口修資・編著（2007）『教育行政概説：現代公教育制度の構造と課題』明星大学出版部
- 明星大学初等教育研究会編（2007）『初等教育原理』明星大学出版部

参考文献

【雑誌・論文】

- 市進学院（2009）『2010年入試用 首都圏国立・私立・公立一貫 中学受験ガイド』 pp. 4-15
- 小塩隆士・田中康秀（2008）「教育サービスの「準市場」化の意義と課題—英国での経験と日本へのインプリケーション—」『季刊 社会保障研究』第44号, pp. 59-69
- 週刊東洋経済（2008）「特集／子ども格差」『週刊東洋経済』2008. 5. 17号, pp. 36-67
- ———（2009）a「特集／日本をぶち壊せ！30BIG IDEAS」『週刊東洋経済』2009. 4. 25号, pp. 76-77
- ———（2009）b「特集／本当に強い中高一貫校」『週刊東洋経済』2009. 6. 20号, pp. 30-77
- 中神康博（2007）「日韓における教育の課題」『教育の政治経済分析—日本・韓国における学校選択と教育財政の課題—』 pp. 1-28
- 西丸良一（2008）「大学進学に及ぼす国・私立中学校進学の影響」『教育学研究』第75巻, 第1号, pp. 24-32
- 文部科学省（2008）『平成19年度 文部科学白書』
- 矢野経済研究所（2008）『教育産業白書』
- Yoon Ha Yoo（2002）「教育需要と競争：良い学校に入学するために」『教育の政治経済分析—日本・韓国における学校選択と教育財政の課題—』 pp. 105-140

【参考URL】

- 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
- 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/>

ご清聴ありがとうございました☆

やなか

